

令和5年度 人権講演会

実施日：11月20日（月）全校生徒・保護者・教職員対象

講演内容：「共生社会を生きる」

講師の先生：前田 真吾 先生

講師の先生紹介： 前田真吾 姫路福祉保育専門学校長 福崎高校 30 回生

高校教育に長く関わり、キャリア教育を軸に、さまざまなアプローチで生徒の潜在能力を引き出し、自分の「持ち味」活かして社会に飛翔できる人材育成に尽力。

現在は、福祉士養成校の校長に加えて、学校経営や授業改善、探究教育やキャリア教育の構築・運営をサポートする教育コンサルタントとして中学校及び高等学校の探究学習プログラム構築を支援。また、文部科学省「高校コーディネーター」、兵庫県専修学校各種学校連合会「高専連携教育プログラム」コーディネーターとして活動されている。

今回の講演会では、「共生社会」とはどういったものなのかを考える機会となりました。講演の中では、あるテーマについて、「自分だったらどうするか、どう答えるか、どのように考えるか」という問いがいくつもありました。アンプティーサッカー、注文を間違える料理店、発電するボール、桃太郎や花咲かじいさんのその背景、共生に関する多種のプロジェクト……。周囲と話し合いながら、自分なりに答えを導いていく様子が印象的でした。前田先生のお話の中には、「人生の自分の軸を見つけて、軸がぶれないように。また、自分が「美しい」と感じるものと出会うために一歩踏み出していこう。」とありました。周りの価値観や対立しうる正義に振り回されず、自分の人生と向き合っていく必要があるのかもしれない。前田先生は、「今回の講話を聞いて、何か考えるきっかけができれば良いな。」とおっしゃっていました。一人ひとり、何らかのきっかけを得たのではないのでしょうか。以下に、生徒感想文を載せます。

（3年生）

- ・桃太郎も見方を変えると悪者になる。また、目が見えなくなった人の中にも、目が見える時には分からなかった「暗さ」を知ることで活躍されている人がいると知って、今まで失敗したり嫌なことがあったとき落ち込んだりマイナスに考えることしか出来ませんでした。今日の講演を聞いて少し違う視点から物事を捉えていこうと思いました。
- ・私はこの話を聞いて、間違えるから新たな価値を見つけることで間違えたからこそ出てくる輝きも見つけることができると思います。私は失敗を恐れずに様々なことに挑戦してみようと思いました。

- ・今日の講演会で、すごくこれからの人生に大切なことを学びました。特に、学ぶだけでなくそこから何をするができるのかと考える力は、僕がこれから学ぼうとしていることに対してすごく大切だと思い知りました。

(2年生)

- ・「難しい問題だからよく分からない」として逃げるような人間にはなりたくない、とする自分の持つ想いを今一度再認識することが出来た。今日の講演会で改めてこの立ち位置を見直し、自分の意思を強く持とうと決意した。
- ・私が学んできたことは、貧困の人たちを救うことができたり、つらい状況にある人に手を差し伸べたりできると思うので、学ぶことをやめないでいようと思いました。
- ・共生社会を生きていく中で、自分のことを第一に考えていては前には進めない。相手のこと、周りのことを考えることで、多くの知識や考えを得ることができ、生きるための道筋が見えてくるのだと、強く感じました。
- ・認知症の高齢の方たちが働いているシーンが心に残っています。お互いが温かい心と尊敬の気持ちをもっている空間で、見ていてとても温かい気持ちになりました。日常の中でも、このような場面がもっと増えてほしいと思いました。

(1年生)

- ・今、自分がしていることそのものに価値があり可能性を信じるのが大切だと思いました。前ばかり見るのも大事だけれど、身近なところにほど温かい心に包まれており普段の生活に感謝をしながら過ごしていきたいを思いました。
- ・「わかった」、「なるほど」で終わらせるのではなく「なぜ？」という探求的な学びという部分を常にという訳ではなく、気になったことや好きなことなど少しずつ日常に取り入れていき、将来の夢やこれからの活かしていきたいと思いました。
- ・寄付をしたりボランティアをしたりするのは少しハードルが高いけど、挨拶なら簡単にできるし、確かに朝、友達と元気に笑顔で「おはよう」と言えたり、ちょっとした話をした日は気分が良くなります。まず簡単なことを毎日続けていこうと思います。
- ・誰が働こうと当たり前の世の中という認識を、聞いた私たち以外にも広めていき、すべての人は平等であり自由という認識を全国共通にしたいです。

講演会の様子



生徒からの質問の様子



生徒会長お礼の言葉・花束贈呈

